

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	国語Ⅱ
科目基礎情報						
科目番号	0049		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	創造工学科 (情報コース)		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	3		
教科書/教材	三省堂『精選現代文B』、準拠『学習課題ノート』、大修館『国語総合 古典編』、第一学習社『新訂総合国語便覧』					
担当教員	森木 三穂					
到達目標						
1. 文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。 2. 代表的な古文・漢文について、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらを通して、異文化に理解を示す姿勢をとることができる。 3. 他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言できる。また、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。また自己のありように照らし合わせて、世界との関連性を見出すことができる。		文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。		文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えることができる。	
評価項目2	代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらを通して、異文化に理解を示す姿勢をとることができる。		代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。		代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	
評価項目3	他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言できる。また、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。		他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めることができる。		他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言できる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	他者とのコミュニケーションの基本となる日本語能力の、総合的な向上を目指す。具体的には情報を正確に受け取り(読む・聞く)、また情報を正確に伝える(書く・話す)技術を磨く。そして、日本語が日本文化の一翼を担ってきたことへの理解を深める。課題提出・小テストは目標達成のため、適宜行う予定である。国語辞典は各自用意すること。					
授業の進め方・方法	基本的に講義形式で進める。またグループワークを中心とした演習形式の授業もある。					
注意点	授業はあらかじめ、予習をしてから臨むこと。ノートは必ずとること。なお、国語辞典(紙媒体・中学校で使したもの可)は各自用意すること。					
事前・事後学習、オフィスアワー						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス・課題について		1年間の授業の流れを理解し、受講する姿勢を身につけることができる。	
		2週	随想「地球上の旅人」		筆者の意見を読み取り、独自の意見を持ち発表することができる。	
		3週	随想「最初のペンギン」		同上	
		4週	小説(1)「山月記」		登場人物の状況や心情を読み取り、想像することができる。	
		5週	小説(1)「山月記」		同上	
		6週	評論(1)「ミロのヴィーナス」		論理の構成や展開を把握し、論旨を客観的に理解し、独自の意見を持つことができる。	
		7週	評論(1)「恐怖とは何か」		同上	
		8週	批評のまなざし「「選べる社会」の難しさ」		同上	
	2ndQ	9週	古典入門『宇治拾遺物語』		古典読解を通して古典文学に親しみ、昔と今を比較し学ぶことができる。	
		10週	古典入門『宇治拾遺物語』		同上	
		11週	古典入門『沙石集』		同上	
		12週	随筆『徒然草』		同上	
		13週	随筆『枕草子』		同上	
		14週	物語『伊勢物語』		同上	
		15週	日記『土佐日記』		同上	
		16週				
後期	3rdQ	1週	評論(2)「メディアと歴史」		論理の構成や展開を把握し、論旨を客観的に理解し、独自の意見を持つことができる。	
		2週	評論(2)「コンクリートの時代」		同上	
		3週	小説(3)「こころ」		登場人物の状況や心情を読み取り、想像することができる。	

		4週	小説(3)「こころ」	同上
		5週	小説(3)「こころ」	同上
		6週	詩歌	日本の詩歌を学び、リズムや言葉の面白さを学ぶことができる。
		7週	評論(3)「スポーツとナショナリズム」	論理の構成や展開を把握し、論旨を客観的に理解し、独自の意見を持つことができる。
		8週	評論(3)「戦争の〈不可能性〉」	同上
	4thQ	9週	評論(3)「『である』ことと『する』こと」	同上
		10週	批評のまなざし「空白の意味」	同上
		11週	軍記『平家物語』	古典読解を通して古典文学に親しみ、昔と今を比較し学ぶことができる。
		12週	和歌・百人一首	同上
		13週	発表準備	プレゼンテーションを通して、説明の仕方、資料の作り方を学ぶことができる。
		14週	発表	
		15週	発表	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるすることができる。	3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	

評価割合

	試験・レポート	発表	相互評価	態度・提出物	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	30	0	10	0	10	100
基礎的能力	50	30	0	10	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0